

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	地域医療連携を活用した吸入指導向上への取り組み
研究責任者	聖隷浜松病院 薬剤部 山本圭祐
研究実施体制	研究責任施設 聖隷浜松病院 薬剤部
研究期間	2018年5月～2020年3月
対象者	2016年10月1日から2018年9月30日の期間で、聖隷浜松病院呼吸器内科の外来にて処方され、保険薬局薬剤師による吸入評価・指導が行われた症例および入院にて病院薬剤師が吸入評価・指導を実施した症例(主な疾患: COPD、気管支喘息)
研究の意義・目的	<p>COPD や気管支喘息のガイドラインでは、吸入薬が第一選択薬として位置付けられ、吸入療法の重要性がますます高まっている。しかしながら、吸入薬のデバイスは多岐にわたり、使用方法が大きく異なるため、適切に使用できない患者も少なくない。また、吸入薬は長期管理薬としてのアドヒアランスを保つのが難しい薬剤であることも指摘されている。近年、医薬分業が進み、院外処方箋を地域の保険薬局が担い、保険薬局薬剤師による服薬指導が実施される機会が多くなってきている。しかしながら、吸入指導の標準化はしばしば困難であり、さらに、処方医師との情報共有も不十分なことが多い。</p> <p>そこで、本研究では、地域の保険薬剤師、病院薬剤師、担当医師が相互に情報を共有するシステムの構築を試み、吸入手技の現状把握および吸入手技向上への効果を明らかにすることを目的とした。</p>
研究の方法	

	<p>研究デザイン 後ろ向き観察研究</p> <p>方法 対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行い、統計ソフト(JMP®)を用いて解析する。</p> <p>年齢、性別、喫煙歴、BMI、診断、病期、治療内容、吸入デバイスさらに、患者の吸入薬の理解・手技に関する以下の項目を調査する。</p> <p>吸入薬の意義、用量用法、器具操作、吸入手技、手入れ方法、残薬アドヒアランス</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報には削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
個人情報開示に係る手続き	<p>個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。</p>
資料の閲覧について	<p>ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
問い合わせ窓口	<p>聖隷浜松病院 薬剤部 (氏名) 山本 圭祐</p> <p>TEL:053-474-2222(代表) 薬剤部 8:30~17:00 平日</p>